

平成29年度社会福祉法人博愛会事業報告書

当法人の経営理念・方針に基づき、高齢者介護・児童福祉を実施するにあたり、地域に信頼される質の高いサービスの提供を目指して事業を行ってきた。事業の実施状況は次のとおり。

1. 法人事業計画実施状況

- 〔1〕社会福祉法人制度改革と法人経営組織の見直し
- 〔2〕中長期経営計画の策定
- 〔3〕地域支援対策の実施
- 〔4〕児童福祉施設の整備構想も具体的検討
- 〔5〕福島県・会津若松市指導監査及び介護保険実地指導の実施
保育所博愛園について、平成29年12月7日に福島県の実地監査を受ける。

2. 理事会、評議員会の開催状況

- 〔1〕理事会で議決された平成29年度事業計画・予算を基に、3ヶ月に1回業務執行理事会で事業の進捗状況について改善検討した。理事会で定期的にその進捗状況について報告を行い、平成29年度の事業の結果と決算についても承認を得た。その他、平成29年度は老人福祉施設及び保育園の就業規則と給与規程の全面見直しを行った。
- 〔2〕6月の定例評議員会では、平成29年度の計算書類・財産目録について承認を得た。

3. 情報公開、開示

インターネット上にホームページを利用し当法人の事業状況及び財務諸表について情報の公開をした（財務諸表については、平成24年度分から開示している）。

4. 苦情解決にかかる苦情対応

苦情への円滑な対応を図るために、第三者委員、苦情解決責任者及び苦情受付担当者として構成する苦情解決委員会を年2回開催し、苦情の内容や解決結果について共有・検討し改善を図った。

5. 各事業総括

〔1〕介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

平成29年度も良質なケアの提供を目指し介護力向上ケア（自立支援ケア）に取り組んだ。その実践成果を東北ブロック福祉施設研究会議で発表し最優秀賞を授与することができた。また、重度化に伴う喀痰吸引が必要な利用者への対応として喀痰吸引実地研修を行い13名の介護職員が資格を取得した。福祉介護PRでは、興味・関心を深めてもらえるよう地元小学校を訪問し福祉学習会を開催した。

施設設備では、経年劣化に伴う特殊浴槽と公用車の更新を行った。また、利用者居室内のプライバシー保護を目的とした改修工事（間仕切り家具設置）を行なった。

〔2〕会津みどりホーム短期入所生活介護

平成29年度は、医療ニーズや認知症状のある方なども積極的に受入れ、職員が連携し対応することで利用者家族、地域に頼られる施設運営を行った。施設内では各月ごと

の季節に合わせた行事やレク活動を実施した。

[3] 会津みどりホームデイサービスセンター

平成29年度は、ケアマネージャーへの情報共有や空き状況への発信、ご利用者家族とのタイムリーな情報共有を行い、信頼関係構築に努めた。担当者会議等にも積極的に参加し、在宅で何に困っているかを把握した上でサービスを提供することで利用者定着に繋がった。またその結果が、稼働率の向上にも繋がった。

[4] 会津若松市片柳デイサービスセンター

利用者・家族のニーズに添ったサービスや柔軟な対応を提供することで在宅生活の維持を支援してきた。また、バイキング食や利用者のニーズの高かった施設外活動を増やし計画的に行い満足していただけるサービスの提供に努めた。

[5] 居宅介護支援事業所会津みどりホーム

平成29年度は新規52件を受け入れ、年間利用者数が2337件となり、目標の2300件を達成できた。主任介護支援専門員の質の向上として介護支援専門員初任者実務研修にて、実務研修生3名を受け入れ、指導や人材育成へのスキルアップを実施した。

[6] 会津若松市若松第四地域包括支援センター

4地区の総合相談の窓口として、住民の方の様々な相談支援を行って来た。サービス事業所とも認知症サポーター講座での協働、ミニケア会議などで連携を図る事ができた。推進員を中心として認知症支援チームとの連携を強め困難ケースの支援を行なった。市の総合事業が開始になり、新たに事業対象者がサービス利用できるようになり、地域住民への周知に努め利用者の増加に繋がった。

[7] 博愛園

少子化が加速する中、会津若松市の子ども子育ての状況を見てみると、特に0~2歳児の子どもを保育園や、認定子ども園に預けて働く母親が増加傾向にあり、当園でも平成29年度の平均入所率は、定員に対し122%となっている。

また、地域貢献事業「保育園でランチを食べよう」では、地域の一人暮らしの高齢者の方を招待して、子どもと触れ合ったり、食事をしていただいた。

[8] すくすく園

平成29年度も、定員を超える園児を受け入れ、就労しながら子育てする家庭を支えてきた。延長保育を利用する家庭も増えていることから、長時間保育園で過ごす園児の安全と心地よい環境づくりを行い、生活リズムを大切にした保育に努めた。

保育所保育指針が改定となったため、研修に参加し内容の理解に努め、新しく保育課程を作成した。また「福島県保育士等キャリアアップ研修」も積極的に受講したことで、今後の計画的な受講に繋げることが出来た。

※ 事業報告の詳細につきましては、各事業所に閲覧用の資料を備えておりますので、ご希望の方はお気軽にお申し出ください。